

風土を温める あたた

シリーズ 高山の文化財③

【県指定文化財】 車田

松之木町には「車田」という全国的にも珍しい水田があります。車輪のように丸く稲苗を植えることが特徴で、現在、国内では佐渡島と高山の二カ所だけに残っています。小さな水田ですが、古くから神聖視され大切に守られてきました。

飛驒の車田は、すでに江戸時代初期ころにはよく知られる農事として定着していたと考えられています。高山城三代城主、金森重頼（一六五〇年没）は「見るもうし植も苦し車田の廻々て早苗とる哉」という和歌を詠んでいます。おそらく当時でも、たいへん珍しい農事であったことから、領主の目に留まったのでしよう。

その後、「飛州志」「飛驒国中案内」「斐太後風土記」などの地誌にその特色が記録されています。たとえば、江戸中期のようすを伝える「飛州志」には、稲苗一把を中央に置き、それから円く巡りながら菅笠の縫目のように植えるのをしきたりとする、また、

毎年五月中旬に行われる田植えは、静かな谷間に田植え唄が響く中、ゆつたりと進みます。また、九月の稲刈りには同心円状の稲株が、徐々に眼前に広がっていくたいへん情緒に富むものです。穢れを避け、わらなど清浄な肥料が使われることも車田の特徴です。収穫された米の一部は、正月飾りの「花餅」などにして、伊勢神宮や氏神の大八賀神社に奉納します。



斐太後風土記より

かつては伊勢神宮への神供米（神前への供物の米）を作ったという言い伝えがあることなどが述べられています。

また、近世飛驒の著名な国学者である田中大秀もこの車田を研究し、伊勢神宮の神領の一つと考えていました。



毎年9月中旬に行われる稲刈り

昨年九月二十日、車田は県の重要無形民俗文化財に指定されました。継承者の平野家をはじめ「松之木町車田保存協力会」は、受け継がれた心を将来に引き継ぐため、さまざまな努力をしています。

また、市教育委員会でも記録保存のため、昨年度一年間にわたる車田での作業や、松之木の七夕など同町の行事を映像で記録しました。

所有者 平野正雄さん
所在地 松之木町車田一七七五番地
時代 江戸時代初期
【見学】 自由

映像記録を閲覧希望の方は文化財保護課（☎35 3156）へ



同心円状に植えられた苗が美しい車田（6月21日撮影）

その後、「飛州志」「飛驒国中案内」「斐太後風土記」などの地誌にその特色が記録されています。たとえば、江戸中期のようすを伝える「飛州志」には、稲苗一把を中央に置き、それから円く巡りながら菅笠の縫目のように植えるのをしきたりとする、また、

毎年五月中旬に行われる田植えは、静かな谷間に田植え唄が響く中、ゆつたりと進みます。また、九月の稲刈りには同心円状の稲株が、徐々に眼前に広がっていくたいへん情緒に富むものです。穢れを避け、わらなど清浄な肥料が使われることも車田の特徴です。収穫された米の一部は、正月飾りの「花餅」などにして、伊勢神宮や氏神の大八賀神社に奉納します。

所有者 平野正雄さん
所在地 松之木町車田一七七五番地
時代 江戸時代初期
【見学】 自由

映像記録を閲覧希望の方は文化財保護課（☎35 3156）へ